

TED Talk を聞いて、読んで、まとめる英語授業の実践報告

—内容理解の設問を足場としたサマリーを中心に—

山村 啓人*

A report on English lessons using a TED Talk to have students
experience authentic listening, reading and summarising

YAMAMURA Hiroto*

This article reports on English lessons using a TED Talk to give students the opportunity to listen to, read, and summarise an authentic English presentation. The central aim of the lessons was to have the students understand the main ideas of the presentation, “*Why humans run the world?*” by Yuval Noah Harari, and make a summary. Along with the samples of students’ summary writing as well as their perceptions towards the classroom activity, this report provides a detailed account of the lessons conducted by the author and reviews ‘the main idea’ and ‘summary’ to help the readers understand how the author developed the lessons. Students’ writing and comments suggested that they seemed to understand the main ideas of the presentation with the help of gist comprehension questions and thought a careful reading of the presentation in preparation for the summary writing led to a deeper understanding of the material.

キーワード：英語の授業, TED Talk, メイン・アイディア, サマリー

1. はじめに

本稿の目的は、筆者が富山高等専門学校（以下、富山高専）射水キャンパスの国際ビジネス学科2年生に行った授業について、その背景となる考えや授業の内容を、実際に学生の書いたサマリーや感想と共に詳述、考察し、実践事例を提供することである。

本授業を実践したのは令和3年度の「総合英語Ⅱ」という科目である。普段は文部科学省検定済教科書を使用したリーディングの授業であるが、本実践では、TED トークを聞いて理解し、サマリー（要約）を作成するという活動を行った。普段学習している教科書とは異なり、TED トークは学習向

*一般教養科英語

e-mail: yamamura@nc-toyama.ac.jp

けではない生の（authentic）英語と題材を提供してくれるものであり、そのメイン・アイディアを理解してサマリーを作成することで、学生にまとまりのある英語の構成や展開について理解を深めてもらいたいと考えたからである。

2. 授業の概要

2.1 対象クラスについて

授業を行ったのは、国際ビジネス学科2年生である。総合英語Ⅱは1コマ90分で週一回、年30回行われる通年科目である。学生たちは他にも、英語表現Ⅱ、英会話ⅡA、ⅡBと、合計週4コマ英語の授業を受けている。授業時、男子5名、女子38名から構成され、授業には意欲的に取り組んでいた。同年度の4月の段階では、8名（18.6%）が実用英語技能検定2級、33名（76.7%）が準2級、準1級と3級取

得者がそれぞれ1名(2.3%)ずつであった。

筆者はこのクラスの担任も務めており、1年次も総合英語Iを担当していた。使用している主な教材は、*PRO-VISION English Communication II* (桐原書店)である。

教科書本文がそれほど平易ではないため、本文の解説について時間を取られがちであり、理解後の言語活動になかなか時間が割けないという葛藤があった。今回は、教科書とは異なる素材を用い、英文の詳細な理解に留まらず、全体の構成やメイン・アイデアを意識し、サマリーを作成するという活動に取り組ませた。

2.2 題材とねらい

数ある TED トークの中で、イスラエルの歴史学者 Yuval Noah Harari 氏の *Why humans run the world?*⁽¹⁾を教材とした。近年 TED トークは広く英語学習に用いられており、インターネット上には TED を活用した英語学習について紹介しているサイトが多数ある。

このトークを選んだ理由は、1.人間がなぜここまで地球上で台頭しているのかを言語や想像力をテーマに論じており非常に興味深い内容であること、2.トークの展開が理路整然としており具体例が効果的に用いられていて分かりやすいこと、3.スピーカーが英語母語話者ではないため、同じ非母語話者の観点から聞いて欲しいと考えたため、の3点である。

そして指導上のねらいは、1.まとまった分量の生のリスニングを体験させる、2.メイン・アイデアを理解した上でサマリーを作成させる、3.人間の言語のもつ力について考えさせる、の3点である。特に2つめが主たるねらいであり、トークの構成、すなわちメイン・アイデアとそれをサポートする理由や具体例を識別し、その理解に基づきサマリーを作成させることで、まとまった分量の英語を構造的に理解させたいと考えた。なお本実践では、メイン・アイデア理解を促すために、内容理解のための質問をあらかじめ用意し、それらに答えていくことで学生がメイン・アイデアを掌

握できるよう工夫した。

2.3 授業の展開

トークは約15分あり、一度に扱うには無理があるため、前半と後半に分けて扱うことにした。前半に3回(12月9日、16日、20日)、後半に2回(1月13日、20日)の計5週費やした。以下に示すとおり、前半と後半それぞれ同様の手順で授業を行った。授業では、実際のTEDトークを見せることはもちろんのこと、それ以外に表1に示す授業の流れに沿った自作のハンドアウトとそれに対応するパワーポイントスライドを用いた。それらについては4.で詳述する。

表1 授業の手順

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. Pair talk (最初のみ) 2. Vocabulary 3. Listening for gist
Just listen
→ Go through questions and listen again 4. Listening for details/Dictation 5. Reading for details in groups 6. Summary writing in groups |
|---|

授業は、まず導入となる質問を投げかけてペアで英語で会話をさせることからスタートした。次に、やや難しいと思われる語彙を先に指導し、リスニングについては、

- (1) YouTube を見せてトークを聞く
- (2) 理解度確認のための質問を理解させたのち、さらに聞く
- (3) その答え合わせをし、今度は穴埋めのためにスクリプトを見ながら聞く

というように計3回聞かせた。さらにその後4人グループでスクリプトを読み込ませてさらに詳細まで理解し、最後に同様のグループでサマリーを作成する、という流れであった。教員学生ともに、授業中の主たる使用言語は日本語であった。教材となるトークを何度も聞き、さらにそれを読んで、第10号 令和4年

最後に書くという、繰り返しと複数の技能を統合的に使用することを意識した授業展開にした。

実際の授業進度は以下のとおりであった。前半に時間をかけすぎたため後半はペースアップしたが、1月20日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Microsoft Teams を用いた遠隔授業⁽²⁾となった。

12月9日：前半①～Listening for details まで

12月16日：前半②Reading for details in groups

12月20日：前半③Summary writing in groups

1月13日：後半①Listening for details

1月20日（遠隔授業）：後半②Reading for details と Summary writing

3. 実践の背景

3.1 なぜサマリーか

本授業は、学生にトークのメイン・アイディアを掴ませ、それに基づいてサマリーを作成させるというねらいのもと行われたことはすでに述べた。ここでは、サマリーをさせる授業実践の意義、またサマリーとは何かについて論じる。

メイン・アイディアやサマリー⁽³⁾というのは、英語を学習していく過程において耳にすることのある言葉であるが、大まかに先取りしておく、メイン・アイディアは書き手または話し手が提示する主要な論点のことであり、サマリーはメイン・アイディアをまとめた要約のことである。文章中に存在しているメイン・アイディアを認識するのは読み手側の役割である。また、メイン・アイディアに基づきサマリーを構築するのも、読み手側のすることである。

従ってサマリーが作成できるということは、多くの情報の中で、読む側がサマリーに含めるべき重要な部分とそうでない部分を取捨選択することができることを含む。それは、書かれている情報を効率よく理解し記憶することにつながり、ひいてはその理解に基づき自らの意見を構築するときに必要なとなるスキルである。卯城編（2009: 145）は、
富山高等専門学校紀要

「テキスト理解において、重要な情報と詳細な情報を判別する能力はもっとも大切な能力の1つです。」⁽⁴⁾と述べている。木村（2013: 55）も「テキストを正確かつ効率的に読解するためには、（中略）読み手がテキスト中の重要な情報とそれを支える詳細情報を区別することが重要である。」⁽⁵⁾と同様の認識を示している。とりわけ大学等の高等教育機関で学術的な英文を読む際、メイン・アイディアを理解しながら読み、その理解に基づきサマリーや批評を作成できたりすることは、必須なアカデミック・スキルの一部である⁽⁶⁾。

例えば、主に北米の大学・大学院に留学するために必要な外国人向けの英語試験である TOEFL iBT テストでは、リーディングセクションにおいて、Prose Summary Questions あるいは Fill in a Table Questions が出題される。これらの問題では、受験者はパッセージ全体のメイン・アイディアをそれ以外の些細な点と区別でき、パッセージの構成が理解できているかどうかを問われる。つまり、パッセージを構成する一文一文を理解できるだけでは不十分であり、主要な点（the major ideas）とそうでない部分（supporting information）を頭の中で整理できることが求められる。なぜそれが重要なのかについて、TOEFL iBT のオフィシャルガイドには次のように書かれている。

Having an organized mental representation of a text is critical to learning because it allows you to remember important information from the text and apply it in new situations. If you have such a mental framework, you should be able to reconstruct the major ideas and supporting information from the text (ETS, 2021: 50)⁽⁷⁾.

つまり、文章中のどこがメイン・アイディアでどこがサポーティング・ディテールズなのかという文章の構成が理解できていると、情報を覚えやすくなり、応用も効くようになるということと、そのような理解ができていれば、メイン・アイディア
第10号 令和4年

とサポーターティング・ディテールズを再構築することもできるということである。

また別の重要な点として、サマリーを作成するためにはメイン・アイデアとサポーターティング・ディテールズを峻別する必要がある、そのことがより精密な読みを要求するということである⁽⁸⁾。いわば文章中の情報の重みを識別することは、文章の一文一文が理解できるだけでなく、どれが筆者の言いたいことで、どれがそれをサポートするための情報なのかといったことを意識、理解することが必要になる。

3.2 サマリーとは何か

サマリー作成は書くスキルであることから、外国語としての英語のライティングの教科書で論じられていることが多い。例えば、Leki (1998)は、“Writing good summaries requires accurate reading and the ability to find the main ideas and most important supporting evidence in a piece of writing.”⁽⁹⁾ (下線部筆者, p. 186)とっており、前述したように、良いサマリーを書くためには、メイン・アイデアを特定するために正確な読みが要求されることを指摘している。同様に、“A good summary presents a clear, concise idea of the main points of an article. To write an effective summary, you need a good understanding of the original article. You need to read the article carefully to determine the author’s purpose and main ideas.” (Blanchard & Root, 2017: 178)⁽¹⁰⁾とあるように、やはりサマリーの主たる構成要素であるメイン・アイデアを見つけるために注意深く読み、よく内容を理解することが前提となる。サマリーというと、「書く」活動として位置づけられることが多いが、その前提として文章の正確で深い理解が必要であるという点は強調しておきたい。筆者が授業でも念頭に置いた部分である。

さらにサマリーについて重要なことは、オリジナルの表現をコピー&ペーストしないということである。つまり意味内容は変えずに、自分の言葉で言い換えて (paraphrase) 表現するということである。このことは、“...it (=a summary) allows you to show

that you have understood the key point of a text and that you can express this clearly in your own way.” (Godfrey, 2013: 45)⁽¹¹⁾や、“Use your own wording.” (Leki, 1998: 186)⁽¹²⁾などのように言われていることから理解できる。Folse and Pugh (2020)は、サマリー作成の手順について、1. Read the source material and understand it well. 2. Decide which ideas or pieces of information in the source material are the most important. 3. Paraphrase each idea using different grammar and vocabulary. 4. Connect the paraphrased ideas together in the same order they appear in the original. (下線部筆者, p. 59)⁽¹³⁾とまとめており、やはり言い換えることの必要性を指摘している⁽¹⁴⁾。

最後に、サマリーは文章の客観的な理解に基づくものであって、書き手の主観を入れないということも重要な点である。サマリーはあくまでも「まとめ」なのであって「感想」ではないということである。この点もやはり、“...do not include your own opinion or comments.” (Godfrey, 2013: 47)⁽¹⁵⁾や、“Don’t include your own ideas or comments.” (Leki, 1998: 186)⁽¹⁶⁾のように書かれている。

以上をまとめると、サマリーとは、1. 文章中のメイン・アイデアを中心に構成され、2. オリジナルの文章のコピー&ペーストではなく書き手の言葉で表現されており、3. 書き手の主観を交えていないもの、だと理解することができる。後述するが、このことを踏まえて授業でも、サマリーとはメイン・アイデアから構成され、できるだけ自分の言葉で表現するものであると伝えた。

3.3 メイン・アイデアとは何か

それでは、サマリーの主たる構成要素である文章のメイン・アイデアとは何であろうか？通常メイン・アイデアとは、文章を構成するそれぞれのパラグラフごとにおける最も重要な論点、筆者の主張のことである⁽¹⁷⁾。そしてそのメイン・アイデアを含む文のことを特にトピック・センテンスと呼ぶことが多い。つまりトピック・センテンスでは、当該パラグラフにおけるトピックについての書き手の主観や意見が示される⁽¹⁸⁾。分かりやすく

表現すれば、Main Idea=Topic + Main Point (Focus) about Topic⁽¹⁹⁾とすることができ、メイン・アイデアが表れている文をトピック・センテンスと呼ぶ。

国内の英語授業実践、特にリーディング指導において、メイン・アイデアとは何かを踏まえた上で指導している例はほとんど見聞きしないが、特筆すべきは元予備校講師である横山雅彦の実践であろう。横山はその一連の著作群⁽²⁰⁾で自身の予備校での指導を「ロジカル・リーディング」と称して体系化している。横山は文章のメイン・アイデアのことを特にクレームと称し、クレームを支えるデータとその裏付けとなるワラントの3つで論証が構成されると述べている。そしてある文がクレームとなる、すなわち論証責任を生じさせる条件として、1 相対的な形容詞、2 助動詞、3 think, believe, want, hope, wish など、Iを主語とする「主観」を表す動詞、の3つを挙げている⁽²¹⁾。

以上、メイン・アイデアとは何かについて概観したが、今回の授業では上のような説明をそのまま教室に持ち込んだわけではない。メイン・アイデアとは何かを指導するためには、それ相応の授業を確保した上で実施する必要がある。今回は学生には、メイン・アイデアとは「筆者がそのパラグラフで最も伝えたいこと」のように簡潔に説明した。

3.4 サマリーを取り入れた英語授業

ベネッセ (2016)⁽²²⁾は、全国の2,518人の中学校英語教員(校長も含む)と2,569人の高等学校英語教員(校長も含む)を対象とした英語の指導実態についての大規模調査であるが、それによると高等学校の英語授業で「英語で教科書本文の要約を書く」活動を「よく行う」教員は7.3%、「ときどき行う」教員は21.6%と、多いとは言えない。その一方で、最もよく行われている指導は「音読」で「よく行う」「ときどき行う」合わせて94.7%、次に多いのが「発音練習」で合わせて92.3%、次は「文法の説明」で89.4%となっている。英語そのものを理解したり練習したりする時間よりも、「話す」「書く」などの実際に英語を使う言語活動が多ければ単に良
富山高等専門学校紀要

いというわけではないだろうが、そのような実践が少ないことは事実のようである。

4. 授業の内容と学生の学び

2.で授業の概要を示したが、ここでは実際の授業の内容を使用したハンドアウトの流れに沿って詳述する。特にサマリーと感想については、実際に学生が書いたものを紹介しながら考察を行う。

前述したとおり、授業ではTEDトークの前半と後半それぞれのハンドアウトを配布し、それらに対応したパワーポイントスライドをプロジェクターでホワイトボードに投影しながら授業を行った。YouTubeでTEDトークを見せられているときはパワーポイントを投影できない。なお、使用したハンドアウトにはプレゼンのスクリプトをすべて掲載している(8.付録1を参照)。

4.1 Pair Talk

授業の最初に行ったのはPair Talkである。この活動は、総合英語Ⅱの授業において各レッスン導入時などに頻繁に行っているものである。トピックに関連する質問をし、ペアで英語で話させたのち、教員がその話した内容を引き出し、シェアし膨らませるといったものである。今回は、What makes us special when compared to other animals? (他の動物と比べ、何が人間を特別な存在にしているか?)という問いかけをし、ペアで話をさせた。ハリリ氏のトークの主題と深く関わる問いであり、トークを理解することがこの問いに対するハリリ氏の答えを理解することになるように作成した。予想どおり学生からは「言語」や「コミュニケーション」といったキーワードを中心に意見が出た。多くの学生が言語はコミュニケーションのツールで、他の動物にはないものという認識はもっているものの、ハリリ氏が主張するような、言語には現実を創り出す側面があるという見方は出てこなかった。

4.2 Vocabulary

次に学生にとって難しくかつ内容を理解するために必要と思われる語彙を選び、意味を指導した。
第10号 令和4年

前半で指導したのは *ancestor, insignificant, individual, collective, execute, intimate, slaughterhouse, concentration camp* である。これらの単語はハンドアウトに載せるとともに、スライドで英語を提示し、意味を英語や日本語で説明した上で日本語訳を提示した。

後半部分の語彙は、*convince, inquisitive, norm, deed, cathedral, mosque, crusade, jihad, underlie, wizard, nationalism, be fond of, dual, unfold* であった。

4.3 Listening for gist and dictation

次にリスニングである。前述したとおり合計3回聞かせた。すべて字幕なしであった。最初にただ聞かせるだけ、次に理解度確認のための質問を理解させたのち聞かせて、質問に答えさせ、ペアで答えを比べさせたのち、教員主導で指名も交えながら質問の答え合わせを行った。多くの学生が質問に答えることができおり、プレゼンの骨子を理解できたと思われる。最後に穴埋めのためにスクリプトを見ながら聞かせた。最初に聞かせたときは、前半のみであったが学生はその長さに驚き、またハラリ氏の英語の訛りにも「癖が強い」などと口々に漏らしていた。

以上3回のリスニングで最も重要なのは2回目である。内容理解についての質問を確認した上で聞くため、最も理解が促進されるためである。前半では以下に示すとおり8つの質問を用意した。

- (1) 導入部分で、どのような疑問を投げかけているか？
- (2) 一人の人間と一匹のチンパンジーを比較しているのはなぜか？
- (3) 人間と動物の本質的な違いは何だと言っているか？
- (4) ハチやアリなどの昆虫は何の例として触れられているか？
- (5) 狼や象は何の例として触れられているか？
- (6) 動物と人間が集団になると、それぞれどうなると言っているか？
- (7) 人間が集団でできることの例として挙げられていることは何か？

- (8) 人間が集団でできることの悪い例として挙げられていることは何か？

後半部分は以下の5つの質問を用意した。

- (1) 人間が大人数で柔軟に協力できるのはなぜか？
- (2) 人間と他の動物のコミュニケーションはどう異なるか？
- (3) ハラリ氏が特に強調したいことは何だと言っているか？
- (4) すべての人間が信じている虚構は何か？
- (5) 結論として、人間がこの地球を支配しているのはどうしてだと言っているか？

以上のように、質問は日本語で作成した。その理由としては、ただでさえ簡単ではないトークの内容を理解しながら、英語の質問の意味も理解しながらかつ英語で答えるのは、負荷が大きすぎると考えたからである。また、これらの質問を作成する際に筆者が意図したのは、これらの質問に答えることが、トークのメイン・アイディアを捉えることの助けになるようにしたことである。ハラリ氏のトークは構成が明快で分かりやすいものの、多くの学生たちにとっては耳から入ってくる英語を理解することで精一杯で、情報の位置づけや重み（重要な情報が単なる具体例に過ぎないのか等）までを同時に処理する余裕はないと予想したため、メイン・アイディア理解の補助輪となるような質問は大いに助けになると考えた。以下、いくつかのパラグラフを例に挙げながら、どのように質問を作成したかを説明する。なお、パラグラフ分けは、メイン・アイディア、あるいはそれらしき考えを中心にまとまりとなっている部分をもとに、筆者の判断で行った。

まず、トークは以下のように始まっている。
Seventy-thousand years ago, our ancestors were insignificant animals. The most important thing to know about prehistoric humans is that they were unimportant. Their impact on the world was not much greater than that of jellyfish or fireflies or woodpeckers. Today, in contrast, we control this planet. And the question is:

How did we come from there to here? How did we turn ourselves from insignificant apes, minding their own business in a corner of Africa, into the **rulers** of planet Earth? (太字は穴埋めの対象とした部分)

ハラリ氏は、人類の祖先が取るに足らないような存在であった過去に比べ、現在の我々はなぜ地球を支配しているのか、という大きな問いを投げかけることでトークを始めている。この導入部分では、この問いが掴めるかどうかがいわばパラグラフのメイン・アイディア理解であるため、(1)導入部分で、どのような疑問を投げかけているか? という質問にした。

別の例を挙げる。先ほどのパラグラフの後、ハラリ氏は、我々は他の動物に比べ、個々の能力が高いために生き残ってきたと考えがちであるが、実は個体レベルではチンパンジーのほうが人間よりも生き残る力がある、と訴える。その後、次のように展開される。

The real difference between humans and all other animals is not on the individual level; it's on the **collective** level. Humans control the planet because they are the only animals that can cooperate both flexibly and in very large numbers. Now, there are other animals—like the social insects, the bees, the ants—that can cooperate in large numbers, but they don't do so flexibly. Their cooperation is very **rigid**. There is basically just one way in which a beehive can function. And if there's a new opportunity or a new danger, the bees cannot **reinvent** the social system overnight. They cannot, for example, execute the queen and establish a republic of bees, or a communist dictatorship of worker bees.

このパラグラフにおいては、第一文 The real difference between humans and all other animals is not on the individual level; it's on the collective level. がトピック・センテンスであり、メイン・アイディアが示されていると言える。つまり人間と他の動物の本質的な違いは個々のレベルにあるのではなく、集団のレベルにあると言っている。このことを説明するために、人間は柔軟にそして大人数で協力

できるのだ (cooperate both flexibly and in very large numbers) と主張し、さらにハチやアリを引き合いに出し、それらは社会性はあるが、極めて限定的な協力しかできないと述べている。この部分に対応する質問は、(3)人間と動物の本質的な違いは何だと言っているか? と、(4)ハチやアリなどの昆虫は何の例として触れられているか? である。(3)に対しては、主にメイン・アイディア部分とその答え「他の動物と違って、人間は集団で協力することができる」となる。そしてそれを例証するために用いられているのがハチやアリであるため、(4)に対しては「集団で協力できるが、その協力は極めて限定的である動物の例」などが答えとなる。

次のパラグラフでは、オオカミ、象、イルカ、チンパンジーなどの社会性のある哺乳類と人間を比較し、それらの動物は (ハチやアリなどと違って) 柔軟に協力はできるが、今度は少数でしかできないと述べている。この部分に対する理解度確認の質問は、(4)狼や象は何の例として触れられているか? である。

以上のように、このトークでは、メイン・アイディアをサポートするために具体例や対比が効果的に用いられており、そのような構成に気付かせるために、メイン・アイディアとそれをサポートする理由や具体例を区別して理解できるよう質問を作成、配置した。

個人作業で質問に答えさせ、ペアで答えを比べさせたのち、指名しながら教員主導で答え合わせを行った。なお、筆者は授業中何かタスクをさせたらほぼ必ずペア・チェックを入れるようにしている。学生がお互いに話をする中で、友人の答えや考えを知れて刺激になり、クラス全体も活性化するからである。そののちクラス全体で答えや意見の共有を行うが、事前にペアで確認させておくことで、クラス全体の前で発表する際の心理的不安を和らげるという目的もある。

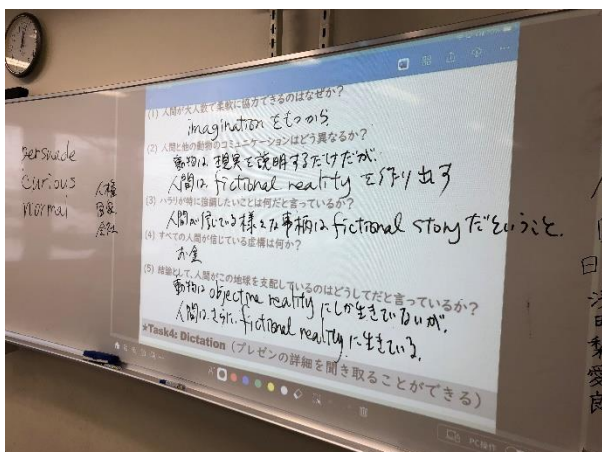


図1 内容理解の質問に対する答えの板書

次の3回目のリスニングは、スクリプトを見ながら穴埋めをするために行った。

4.4 Reading for details in groups

次はリーディングである。3回のリスニングと内容理解の質問を通して、学生のほとんどが骨子を理解できたと思われるが、詳細な文構造など理解できていない部分も残っているため、4人グループで辞書も使いながら読む時間を取った。その方がお互いに意見を交わしながら学び合うことができるからである。学生たちは活発に話しながらリーディングを進めていた。



図2 グループで読む様子

グループで読ませたのち、教員主導で意味の確認を行った。ここでは特に学生の理解度を確かめたい英文について、筆者がまず英文を声に出し、テンポよく学生を指名し日本語訳を言わせ、確認、

富山高等専門学校紀要

訂正しながら進めた。必要に応じて板書も行った。

4.5 Summary writing in groups

最後にグループでのサマリー作成である。その際いきなりサマリー作成を指示するのではなく、以下のようにハンドアウトに書いておき、2段階で行った。

- A good summary only contains the main points. First, identify and list the main points from the presentation.
- Now, write a summary in groups. Make sure not to copy the sentences but try to express the same idea in your own words.

まず、トークからメイン・アイディアを抜き出させる作業をさせた。次にそれをもとにグループでサマリーを作成させた。留意したのは、3.2で説明したように、サマリーはメイン・アイディアをまとめたものであることと、できるだけ自分の言葉で表現するという点である。

ハンドアウトには上のように英語で指示文を書いたが、日本語で「抜き出すべきメイン・アイディアは、リスニングで行った内容理解の質問に対する答えとなる部分とほぼ対応するようになってい」というようにヒントを与え、サマリーに取り組むハードルが下がるようにした。繰り返し述べているように、内容理解の質問は、このサマリー作成の布石となることを意識していた。

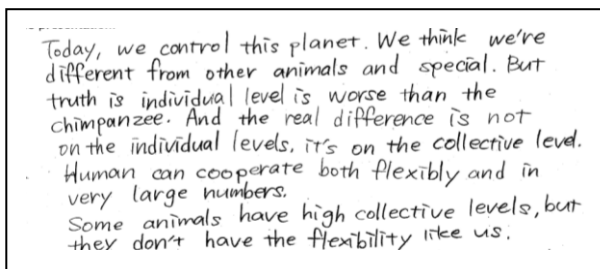
そしてサマリーを作成させたのち、グループごとに口頭で発表させた。サマリーのため、各グループがまとめているポイントはほとんど同じだが、表現の仕方は少しずつ異なるため、学生らはその違いに気づきながら他グループのサマリーを聞いていた。最後に以下のとおり、筆者が作成したサマリーをサンプルとして提示した。

Why did humans come to control the Earth? We humans are essentially different from other animals not on the individual level but on the collective level. Humans can cooperate flexibly in large numbers, which is impossible for other animals. By cooperating with other people, humans can realize TED talk, for example. Humans cooperate to do something bad, such as making

第10号 令和4年

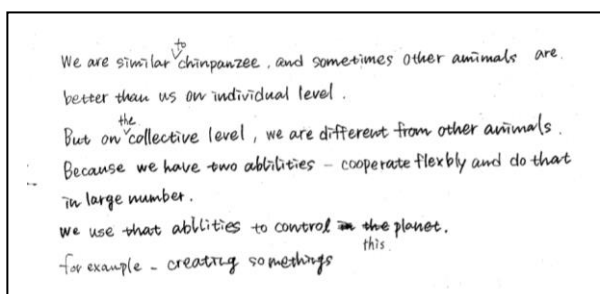
slaughterhouses.

実際に学生が書いた例をいくつか紹介する。



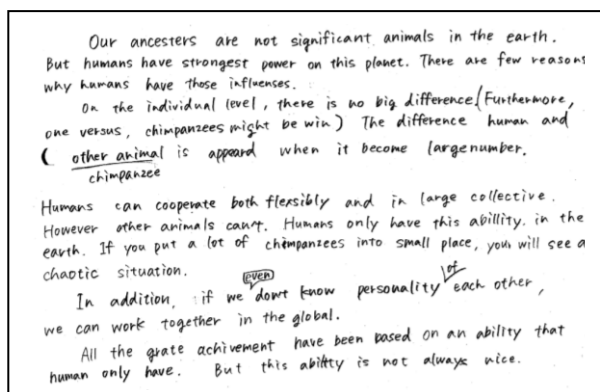
Today, we control this planet. We think we're different from other animals and special. But truth is individual level is worse than the chimpanzee. And the real difference is not on the individual levels, it's on the collective level. Human can cooperate both flexibly and in very large numbers. Some animals have high collective levels, but they don't have the flexibility like us.

図3 学生作成サマリーA



We are similar ^{to} chimpanzee, and sometimes other animals are better than us on individual level. But on ^{the} collective level, we are different from other animals. Because we have two abilities - cooperate flexibly and do that in large number. We use that abilities to control ^{this} the planet. For example - creating somethings

図4 学生作成サマリーB



Our ancestors are not significant animals in the earth. But humans have strongest power on this planet. There are few reasons why humans have those influences. On the individual level, there is no big difference (Furthermore, one versus, chimpanzees might be win) The difference human and other animal is appeared when it become large number. Humans can cooperate both flexibly and in large collective. However other animals can't. Humans only have this ability, in the earth. If you put a lot of chimpanzees into small place, you will see a chaotic situation. In addition, if we don't know ^{even} personality ^{of} each other, we can work together in the global. All the grate achievement have been based on an ability that human only have. But this ability is not always nice.

図5 学生作成サマリーC

前半のサマリーに含めるべきメイン・アイディアは以下のとおりである。

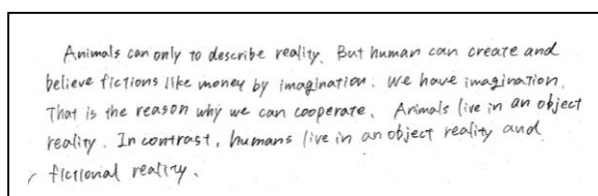
- Why did humans come to control the Earth?
- The real difference from humans and other animals is not on the individual level but on the collective level.
- Humans can cooperate flexibly in large numbers, which is impossible for other animals.
- By cooperating with other people, humans can realize TED talk, for example. Humans cooperate to do something bad, such as making slaughterhouses.

学生が書いたサマリーA～C(図3～5)を見ると、それぞれ含めるべきポイントはほぼうまく書かれている。AとBはすっきりしたサマリーなのに対してCの学生は自分なりに補足しながら書いている様子が伝わってくる。例えば、誤りは含むものの、But humans have the strongest power on this planet.やThere are few reasons why humans have these influences.などは原文にない表現であり、「自分の言葉で」をできるだけ実現させようとしたことが分かる。

一方、どの例を見てみても気づくのは、センテンスレベルでの英語の誤りである。例えばAではBut truth is individual level is worse than the chimpanzee.という文が見られる。後で学生と話して分かったが、多くの学生はlevelという単語の意味を日本語の「(技能や能力などの)レベル、水準」という意味で捉えてしまっていた。この例では、「個人のレベルは」というように理解してしまっていると思われる。正しくは「段階、観点」という意味であり、例えばon a personal level「個人的には」などのように使われるが、英語に慣れていないと正しく理解できないということが分かった。

Cの例でもThe difference human and other animal is appeared when it become large number.とあり、the difference between A and Bという形が使えていない、other animalに複数形のsがない、代名詞itが何を指すのか不明、becomeに三単現のsがないなど、様々な誤りが含まれている。さらに最後のbecome large numberというのは日本語の「人間が大人数になったとき」を直訳した結果だと思われるが、英語としては不自然になっている。正しくはwhen we cooperate in large numbers.などであろう。

後半のサマリー例も紹介する。



Animals can only to describe reality. But human can create and believe fictions like money by imagination. We have imagination. That is the reason why we can cooperate. Animals live in an object reality. In contrast, humans live in an object reality and fictional reality.

図6 学生作成サマリーD

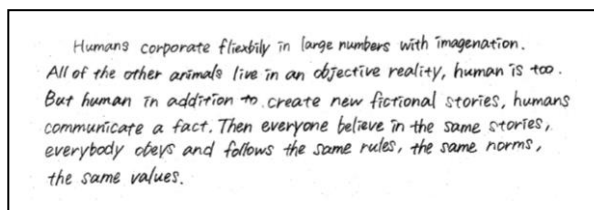


図7 学生作成サマリーE

後半でサマリーに含めるべきメイン・アイデアは以下のとおりである。

- Humans can cooperate in large numbers and flexibly because of our imagination.
- Animals communicate only to describe reality but humans are able to create new realities.
- We believe fictional realities in many different fields, such as law, economy and politics.
- Money is the most powerful fiction that everybody believes.
- Animals live only in an objective reality but humans live both in an objective reality and fictional reality.

後半部分では、人間の協力の鍵は想像力であるということと、人間は言語で単に目の前のことを描写するだけでなく、虚構や概念まで作り上げることができ、結果として客観的な世界（an objective reality）と想像上の世界（fictional reality）両方に生きている（そして現代社会では後者がより強大になってきている）と主張されている。

サンプルサマリーは以下のとおりであった。

Humans can cooperate in large numbers and flexibly because of our imagination. Animals communicate only to describe reality but humans are able to create new realities. We believe fictional realities in many different fields, such as law, economy and politics. Among them, money is the most powerful fiction that everybody believes. Animals live only in an objective reality but humans live both in an objective reality and fictional reality. This is why we humans control this planet.

学生が書いた例 D, E（図 6, 7）を見てみると、ほぼ重要な点は含まれており、それぞれ自分なりの言葉で情報を統合して表現しようとしていること

が分かる。例えば D では、But human can create and believe fictions like money by imagination., E では Then everyone believe in the same stories, everybody obeys and follows the same rules, the same norms, the values. といった原文にはない英文が見られる。先に指摘したとおり、文法上の誤りが見られることはここでも同様である。

サマリーを指示した際、サマリーにはメイン・アイデアを含めるということと、できるだけ自分の言葉で表現するということを伝えた。前者については、リスニングの段階でメイン・アイデア理解を助ける設問に取り組みさせたことで、重要な情報を上手くサマリーに取り込めていたと言える。

また学生のサマリーでは、言い換えが十分になされていない部分も多くある。例えば、cooperate flexibly in large numbers, live in an objective reality など、ポイントとなる表現はそのまま使用されており、全体としてはメイン・アイデアをつなげた「つぎはぎ」状態である。言い換えは、原文の意味を保持したまま新たな語彙や文構造を用いて表現することであり、かなり高度なスキルである。今回は「できるだけ自分の表現で」と指示することに留めたのであり、授業時の学生の英語熟達度を考えれば、メイン・アイデアを認識し、可能な部分は表現を入れ替えるだけでも十分ではないかと考えた。

本来であれば、今回用意したようなメイン・アイデアに沿った内容理解の質問がない状態で、自ら聞き（読み）、情報を取捨選択できれば理想的なのかもしれない。しかし何の足場掛け（scaffolding）もない状態で一文一文を理解しながらメイン・アイデアとサポーティング・ディテールの峻別をするのは、学生たちにとって容易なことではない。それを可能にするためには、「メイン・アイデアとは何か？」について、多くの例を通して指導しておく必要がある。様々な制約がある普通の授業の中で、そこまで指導するのはなかなか難しく、今回はこちらが用意した質問に答えることで学生がメイン・アイデア理解に辿り着けるよう授業を

デザインした。筆者としては、今回のようにアカデミックな話題を扱ったまとまりのあるトークでは、メイン・アイディアを理由や豊富な具体例でサポートしていくという、いわば英語の発想・思考パターンについて、少しでも学生に気付いてもらえたらという思いがあった。英語を学ぶことは、単に英語の発音や語彙、文法を理解し覚えていくことに留まらず、多かれ少なかれその言語の文化や発想・思考様式をも習得していくことも含まれるからである⁽²³⁾。

4.6 授業の感想

以下、前半のサマリーまでを終えた時点での学生の感想を原文のまま示す。多くの感想に共通していたのは、サマリーを作ろうとすることで内容の理解が深まったということと、言い換えるのは難しいということである。サマリー作成のためにはメイン・アイディアを理解する必要がある、そのためには一文一文を理解することに加え、文章中の情報の重みを判断するという高次の処理してもらいたかったため、そのねらいは達成されたのではないと言える。

- ・自分たちで要約を考えるのはすごく頭を使っている感じがして楽しかったです。
- ・自分のもっている語彙を絞り出そうとしたので、サマリーを書くことは、自分の語彙力の向上や応用につながるなと感じました。実際、先生のサマリーを見て、使えたなと思う単語がいくつかあったのでよりそう感じました。
- ・要約を書くということは、文の大切なところだけを見つけるということなので、文の本質を読みとることができると思いました。
- ・意外と重要な部分がどこなのか分からなくて、けっこう迷いました。でも、考えているうちに、見つけられて、重要な部分が分かったので内容を理解しやすくなりました。
- ・サマリーを書くときにはどこを本当に書くべきかどうかを見極めることが必要なので、十分に頭に入れる必要があるのが大変です！
- ・Summary を書くには1つ1つの文の意味を把握

するだけでなく全体を見なければいけないので大変だと思った。

- ・サマリーを作るのは、やっぱり難しかったけど、内容をよく理解できた気がしました。
- ・最初はほとんど何も分からなかったハリさんのTEDトークがどんどん分かるようになってきて嬉しいです。
- ・要約をしたり、その場で和訳は難しかったけどとても力がつきそうです。
- ・グループで話し合いながらサマリーを書こうとすると自然に内容をより深く理解することにつながりました！

後半では、内容理解後の感想も書かせたため、その一部も紹介する。

- ・ハリさんのスピーチで今まで信じていたものはよく考えると価値を私たちが後付けしたものなのかと見方を変えることができました。
- ・宗教も国もお金も、身の回りとかだと学校も当たり前のことだから虚構だと言われそんな見方もあるのかと驚いた。
- ・お金は言ってしまうと紙切れなのに、なんでそんな価値がたもたれているのか不思議です。
- ・確かに、ここまで自分たちだけの世界を創造できるのは人間だけかなと思いました。こんなに想像力のかたまりみたいな人間の世界で生きるためには、いろんな視点を持って、いろんな想像をできるようにならないかなと思いました。
- ・この世界がフィクションでできているというのはなるほどと感動しました。お金のたとえばとても分かりやすく、人間はお金によっていろいろ動いているけど、そのお金自体はただの金属だったり、紙だったりと思うと悲しくなりました。
- ・フィクションは物語や宗教だけだと思っていたけど、私たちが当たり前にお金や国もフィクションで成り立っていると改めて気付かされた。

本実践のねらいのひとつは、「人間の言語のもつ力について考えさせる」であった。感想をしてみる
第10号 令和4年

と、学生たちはハラリ氏のトークを通じて、各々新たな見方を獲得したり考え直したりしている様子が伝わってきた。今回使用したような、聞き(読み)応えのある内容でメイン・アイディアの理解をねらいとした授業を実践することで、学生たちには、単に英語の単語や文法を学ぶこと以上の収穫があったのではないと思われる。

5. おわりに

本稿では、富山高専の国際ビジネス学科2年生を対象にした総合英語Ⅱの授業について報告した。長めの文章であっても、パラグラフごとのメイン・アイディアを理解するための質問を通して、学生たちはメイン・アイディアや全体の構成を理解することができたのではないと思われる。一方、理解したことを英語で表現することのハードルは高く、文法ミスや不十分な言い換えなど、今度の指導上の課題も明らかとなった。しかし、完成したサマリーが不十分なものであったとしても、文章中のメイン・アイディアはどれなのかという意識で文章に接することが重要であり、それは文章を構造的に深く理解することにつながる。今後も一文一文の理解に留まらず、文章全体の構造も理解させる指導を継続していきたい。

また、より系統的にデータを収集し、必要に応じてアンケート結果などの量的なデータと、フィールドノーツや録音データなどの質的なデータを交えながら学生の学びの様子を捉え記述していきたい。

6. 謝辞

本稿は、2022年2月19日にオンライン開催した第217回富山英語指導法勉強会にて発表した報告「TED トークを聞いて、読んで、まとめる授業—サマリーを中心として—」に加筆したものである。

7. 脚注・引用文献

- (1) <https://www.youtube.com/watch?v=nzj7Wg4DAbs>
- (2) 遠隔(オンライン)授業では、学生は各々の自

富山高等専門学校紀要

宅で Microsoft Teams を使って授業を受ける。筆者は、基本的に音声で授業を伝えながら、必要な資料を画面共有によって示しながら授業を進めた。ペアやグループでの話し合いはできないという欠点はあるものの、学生を指名して発言を引き出すことで、参加型の授業にすることは可能である。

(3) 本稿では、メイン・アイディアやサマリーといった用語をそのままカタカナで用いる。翻訳すると、サマリーは「要約」、メイン・アイディアは「主旨」に近いと思われるが、「論旨」や「要旨」など似た用語が他にもあるため、紛らわしさを避けるためにカタカナをそのまま用いる。

(4) 卯城祐司編, 英語リーディングの科学, 研究社, (2009)

(5) 木村雪乃, マクロルールに基づくメインアイディア理解能力の検証, *Eiken Bulletin*, 25, 55-76, (2013)

(6) Swales, J. M. & Feak, C. B. *Academic Writing for Graduate Students*, The University of Michigan Press, (2012) この本で著者らは, “In an academic setting especially, summaries can form an essential part of our preparation for an exam, a class discussion, a research paper, a thesis, or a dissertation.” (p. 188)と述べており, アカデミックな環境においては要約(する能力)が必須であると言っている。

(7) ETS. *The Official Guide to the TOEFL iBT*, McGraw Hill, (2021) なお, TOEFL iBT では, スピーキングセクションとライティングセクションで *integrated tasks* があり, 受験者はスピーキングセクションでは, あるものを読み, それについての会話や講義を聞いた上で, それらの情報を要約・統合して話すことが求められる。ライティングセクションにおいても同様に, 読んだものについての講義を聞いた上で, 情報を要約・統合して書くことが求められている。

(8) 山岡大基, 英文要約指導法の定式化に向けた基礎研究, 中等教育研究紀要, 広島大学附属福山中・高等学校, 50, 187-194, (2010)

(9) Leki, I. *Academic Writing: Exploring Processes and Strategies*, CUP, (1998)

(10) Blanchard, K. & Root, C. *Ready to Write 3: From Paragraph to Essay*, Pearson, (2017b)

(11) Godfrey, J. *How to Use Your Reading in Your Essays*, Palgrave, (2013)

(12) Leki, I. 上掲書

(13) Folse, K. S. & Pugh, T. *Great Writing 5: From Great Essays to Research*, National Geographic, (2020)

(14) 言い換え(paraphrasing)はサマリーと同様, 重要なアカデミック・スキルであり, Swales, J. M. & Feak, C. B.は, “Good paraphrasing can demonstrate that you have understood the text you have read and can avoid plagiarizing” (p. 202)と述べているように, 言い換えることは剽窃(plagiarism)を防ぐ意味で重要である。

(15) Godfrey, J. 上掲書

(16) Leki, I. 上掲書

第10号 令和4年

(17) 英語のアカデミック・ライティングや論文の書き方に関する書籍では、論文やエッセイ全体の主張を主題 (Thesis statement) と呼んでいることが多い (例えば一橋大学英語科, 英語アカデミック・ライティングの基礎, 研究社, (2015)などを参照)。主題がより小さい論点に分割され, 各パラグラフの主張となったものがそのパラグラフのメイン・アイデアでありトピック・センテンスとして表現される。全体の主題をトピック, 各パラグラフのメイン・アイデアのことをサブ・トピックとしている書籍もある (藤本滋之, やさしく書ける英語論文, 松柏社, (2002)を参照)。

(18) Blanchard, K. & Root, C. *Ready to Write 2: Perfecting Paragraphs*, Pearson, (2017a), p. 27. このことを具体例で説明すると, 例えば Cell phones make communication much easier. というトピック・センテンスにおいては, cell phones がトピックであり, それに対してこの書き手は「コミュニケーションを容易にしている」という意見をもっているということである。従ってこのトピック・センテンスから始まるパラグラフでは, 「なぜ, また, どのように携帯電話はコミュニケーションを容易にしているのか」を理由や具体例を挙げながら説明する文が続くはずである。Reid, J.M. *The Process of Paragraph Writing*, PRENTICE HALL, (1994) は, “The topic sentence contains controlling ideas that need to be explained, described, and supported in the paragraph that follows.” (p. 36)と述べており, トピック・センテンスにはその後の文の展開を決定づける (controlling idea) を含むと表現している。

(19) <https://www.youtube.com/watch?v=ThskMeB1e5s>
なお Topics and Main Ideas と題したこの YouTube の動画では, トピックとメイン・アイデアについて簡潔に分かりやすく解説されている。

(20) 横山雅彦, 横山ロジカル・リーディング講義の実況中継, 語学春秋社, (2000), 横山雅彦, 横山ロジカル・リーディング講義の実況中継—実践演習①客観問題の解法, 語学春秋社, (2001), 横山雅彦, 横山ロジカル・リーディング講義の実況中継—実践演習②記述問題の解法, 語学春秋社, (2001)

(21) 横山雅彦, 高校生のための論理思考トレーニング, 筑摩書房, (2006), p.100.

(22) ベネッセ教育総合研究所, 中高の英語指導に関する実態調査, (2016)

(23) 井上逸平, 英語の思考法—話すための文法・文化レッスン, 筑摩書房, (2021)は, 「英語を身につけるには, どうしても英語のコミュニケーションの文化を身につけざるを得ない。(中略) 英語という言葉には, 分ちがたく英語のコミュニケーションの文化が染みついているからである。」 (p. 13)と述べている。

8. 付録

付録1 授業で用いたハンドアウト前半用（実際のものよりも行間を狭くしてスペースを省いてある）

総合英語Ⅱ(K2) PRO-VISIONⅡ

R3. No.10

<番外編－TED Talks: Why humans runs the world?－Yuval Noah Harari>

【前半】

★Task1: Pair Talk（自分の意見が言える）

- ・ What makes us special when compared to other animals?

★Task2: Vocabulary（新出の語彙が理解できる）

ancestor insignificant individual collective execute
intimate
slaughterhouse concentration camp

★Task3: Listening（プレゼンのメイン・アイディアが理解できる）

・ Listen to the presentation and understand the main ideas of the presentation by answering the questions below.

- (1) 導入部分で、どのような疑問を投げかけているか？
- (2) 一人の人間と一匹のチンパンジーを比較しているのはなぜか？
- (3) 人間と動物の本質的な違いは何だと言っているか？
- (4) ハチやアリなどの昆虫は何の例として触れられているか？
- (5) 狼や象は何の例として触れられているか？
- (6) 動物と人間が集団になると、それぞれどうなると言っているか？
- (7) 人間が集団でできることの例として挙げられていることは何か？
- (8) 人間が集団でできることの悪い例として挙げられていることは何か？

★Task4: Dictation（プレゼンの詳細を聞き取ることができる）

- ・ Listen to the presentation again and fill in the blanks below.

★Task5: Reading（プレゼンの詳細が理解できる）

イスラエルの歴史学者 Yuval Noah Harari のプレゼンテーション原稿を読み、細部を理解しなさい。対比や具体例が、どのような効果を生み出しているだろうか。

Seventy-thousand years ago, our ancestors were insignificant animals. The most important thing to know about prehistoric humans is that they were (). Their impact on the world was not much greater than that of jellyfish or fireflies or woodpeckers. Today, in contrast, we () this planet. And the question is: How did we come from there to here? How did we turn ourselves from insignificant apes, minding their own business in a corner of Africa, into the () of planet Earth?

Usually, we look for the difference between us and all the other animals on the () level. We want to believe -- I want to believe -- that there is something special about me, about my body, about my brain, that makes me so superior to a dog or a pig, or a chimpanzee. But the () is that, on the individual level, I'm embarrassingly similar to a chimpanzee. And if you take me and a chimpanzee and put us together on some lonely (), and we had to struggle for survival to see who survives better, I would definitely place my bet on the chimpanzee, not on myself. And this is not something wrong with me personally. I guess if they took almost any one of you, and placed you alone with a chimpanzee on some island, the chimpanzee would do much better.

The real difference between humans and all other animals is not on the individual level; it's on the () level. Humans control the planet because they are the only animals that can cooperate both flexibly and in very large numbers. Now, there are other animals -- like the social insects, the bees, the ants -- that can cooperate in large numbers, but they don't do so flexibly. Their cooperation is very (). There is basically just one way in which a beehive can function. And if there's a new opportunity or a new danger, the bees cannot () the social system overnight. They cannot, for example, execute the queen and establish a republic of bees, or a communist dictatorship of worker bees.

Other animals, like the social mammals -- the wolves, the elephants, the dolphins, the chimpanzees -- they can cooperate much more flexibly, but they do so only in small numbers, because cooperation among chimpanzees is () on intimate knowledge, one of the other. I'm a chimpanzee and you're a chimpanzee, and I want to cooperate with you. I need to know you personally. What kind of chimpanzee are you? Are you a nice chimpanzee? Are you an evil chimpanzee? Are you trustworthy? If I don't know you, how can I cooperate with you?

The only animal that can () the two abilities together and cooperate both flexibly and still do so in very large numbers is us, Homo sapiens. One versus one, or even 10 versus 10, chimpanzees might be better than us. But, if you pit 1,000 humans against 1,000 chimpanzees, the humans will win easily,

for the simple reason that a thousand chimpanzees cannot cooperate at all. And if you now try to cram 100,000 chimpanzees into Oxford Street, or into Wembley Stadium, or Tiananmen Square or the Vatican, you will get chaos, complete chaos. Just imagine Wembley Stadium with 100,000 chimpanzees. Complete ().

In contrast, humans normally gather there in tens of thousands, and what we get is not chaos, usually. What we get is extremely sophisticated and () networks of cooperation. All the huge achievements of humankind throughout history, whether it's building the pyramids or flying to the moon, have been based not on individual abilities, but on this ability to cooperate flexibly in large numbers.

() even about this very talk that I'm giving now: I'm standing here in front of an audience of about 300 or 400 people, most of you are complete strangers to me. Similarly, I don't really know all the people who have organized and worked on this event. I don't know the pilot and the crew members of the plane that () me over here, yesterday, to London. I don't know the people who invented and manufactured this microphone and these cameras, which are () what I'm saying. I don't know the people who wrote all the books and articles that I read in preparation for this talk. And I certainly don't know all the people who might be watching this talk over the Internet, somewhere in Buenos Aires or in New Delhi.

Nevertheless, even though we don't know each other, we can work together to create this global exchange of ideas. This is something chimpanzees cannot do. They communicate, of course, but you will never catch a chimpanzee traveling to some distant chimpanzee band to give them a talk about bananas or about elephants, or anything else that might interest chimpanzees. Now cooperation is, of course, not always nice; all the horrible things humans have been doing throughout history -- and we have been doing some very horrible things -- all those things are also based on large-scale cooperation. () are a system of cooperation; slaughterhouses are a system of cooperation; concentration camps are a system of cooperation. Chimpanzees don't have slaughterhouses and prisons and concentration camps.

★Task6: Summary (プレゼンの要点を理解し表現できる)

- A good summary only contains the main points. First, identify and list the main points from the presentation.
- Now, write a summary in groups. Make sure not to copy the sentences but try to express the same idea in your own words.